

# 高等学校事情

## 第7回 九州エリア

今号では九州エリアの福岡県と熊本県の動きをレポートする。福岡県では、理数系の学力向上対策や高校入試での追加問題導入などで、高校ごとの特色づくりが進んでいる。熊本県は、県全体の教育力のレベルアップを目標とした私立高校支援事業が活性化している一方、県立高校では大規模な統合・再編が進行中で、多数の高校で起こっている定員割れの解消に取り組んでいる。

### 福岡県

大学等進学率は53.4%で、全国平均(53.9%)に近いが、地元大学進学率は63.7%で全国第3位、地元短大進学率は90.7%で全国第1位。これは県内の大学・短大数が58校と多く、地元進学において多様な選択が可能のためである(図表1)。

大学と連携し、学習合宿(スーパーセミナー合宿)を実施している。参加者は県内の高校から公募する。九州大学の教員をファシリテーターとして招き、現代社会の課題を軸にしたメインテーマと、それに関連したサブテーマを設定。

約150人の生徒が7、8班に分かれ、テーマに沿って討論を行い、問題解決方法をまとめる。「班ごとに大学教員がつき、高度な学習体験ができるが、大学の模擬授業とは一線を画している。生徒の満足度は高い」(県教委)と言う。

合宿当日だけでなく、選択したサブテーマの事前課題について調査・研究し、レポートにまとめる「事前学習」と、合宿終了後に提出するレポートについて担当講師から指導を受ける「事後学習」も設けられている。この事業は2011年度で終了するが、2012年度からも同様の事業を実施する予定だという。

2006年度からスタートした高校生理数能力向上事業は、県独自の「理数オリンピックコンテスト」を年1回開催し、科学技術に対する関心の向上や能力の伸長に取り組んでいる。

コンテストは、数学・物理・化学・生物から1科目を選択する学力試験によって、成績上位5人を表彰する。団体部門も設けられており、全国大会で

ある「科学の甲子園」の県選抜も兼ねている。

コンテストの成績優秀者を対象に、4日間の「理数オリンピックセミナー」も開催。九州大学で特別プログラムを開講し、科学技術系人材の育成にあたっている。優秀者の中から、国際科学技術コンテストの本選で金賞を受賞する生徒も出たという。

「福岡県の教育施策」は、2010年度に14人だった高校生の海外留学経験者を、2013年度には40人まで増加させるとの具体的な目標を掲げている。そこで「世界に挑む人材育成事業」を2011年度から開始。海外の高校への留学を支援するもので、将来、世界を舞台に活躍できる人材を育成することが目的だ。

年間40人の募集をしており、最大50万円の助成金を交付する。留学期間は原則として1年間の予定だ。2012年の1回目の説明会には100人を超える高校生が参加した。

留学先の高校で修得した単位を在籍高校の単位として認定するかどうかは、各高校に任されている。単位認定されない場合は、卒業が1年遅れるため、それを敬遠して留学しないという生徒もおり、県教委は、この点が今後の課題としている。

が指定した教科の評点を1.5倍にして合否判定を行っている(図表2)。

2009年度入試からは、従来の学力検査だけでは測れない生徒の個性や適性、学習意欲等を重視する入学者選抜を行うことを目的に、県作成の追加問題が導入された。当初より、数学のみで実施されている。

筑紫丘高校など、理数科や理数コースを持つ4校が導入しており(図表3)、今後さらに実施校が増える可能性もあるという。問題の難度が高すぎるという声もあるが、県教委は「生徒の適切な能力を測るためには必要だ」として、現状を維持する方向だ。

### 進路指導の特徴

#### キャリア教育と併せて独自の指導を行う

福岡県は、土曜講座や長期休暇学習の実施など、面倒見がよく手厚い指導が特徴である。

2010年度にSSH指定を受け、毎年40人前後の九州大学合格者が輩出している城南高校では、1995年にキャリア教育と進路指導を組み合わせる学習力の育成を行う「ドリカムプラン」を導入して、大学進学実績を上げてきた。プランに基づいた年間計画に沿って、学年ごとの進路講演会や小論文講

図表2 2011年度の加重評価実施校(抜粋)

高校名	実施学科・コース	加重教科
小倉南高校	普通科英語コース	外国語(英語)
城南高校	普通科理数コース	数学、理科
山門高校	普通科理数コース	数学、理科
香住丘高校	普通科数理コミュニケーションコース	理科
	英語科	外国語(英語)
八幡高校	理数科	数学、理科
筑紫丘高校	理数科	理科
明善高校	理数科	理科
嘉穂高校	理数科	理科

図表3 高校入試における追加問題実施校

導入年度	高校名	学科・コース名
2009年度入試	筑紫丘高校	理数科
	明善高校	理数科
	嘉穂高校	理数科
2010年度入試	香住丘高校	普通科数理コミュニケーションコース

座、キャリアアップ講座などを開き、「ドリカムブック(キャリア教育ノート)」を活用して、進学志望校の学科や研究分野を調査する大学研究プログラムを実施。大学進学だけでなく、その先まで見据えた進路設計を指導する。

特徴ある私立高校としては、国公立大学への合格者数を年々伸ばしている福岡工業大学附属城東高校が挙げられる。入学時に、国公立大学や難関私立大学への進学を目標とする「普通科I類」、私立大学をめざす「普通科II類」などにコース分けし、それぞれの進路に沿ったサポートを行う。

始業前に実施する15分間の早朝テストや、個別指導の数学クリニック、講義と自習、小テストを組み合わせる集中学習する夏季休暇中の勉強合宿など、授業以外での指導も充実している。また、家庭学習の習慣化のため、学習日誌を活用し、生徒が記入する1週間の予定や振り返りをもとに、担任の教員が指導している。

図表1 18歳人口と進学率の推移

年度	2007	2008	2009	2010	2011
18歳人口(人)	53,242	50,424	49,228	49,470	48,673
大学等進学率(%)	50.5	51.7	52.8	53.2	53.4
地元大学進学率(%)	63.5	63.8	64.2	64.5	63.7
地元短大進学率(%)	91.0	90.5	90.1	91.4	90.7

※学校基本調査報告書を基に進研アドが算出。  
 ※大学等進学率には、大学・短大の通信教育部への進学者を含む。過年度卒業者を含まない。  
 ※地元大学進学率、地元短大進学率には過年度卒業者を含む。

## 熊本県

熊本県の  
アウトライン九州新幹線が開通し  
今後の進学動向に注目

文部科学省「2011年度学校基本調査」によると、熊本県の18歳人口は1万9201人で、高校数は公立66校、私立21校の合計87校(特別支援学校を除く)。生徒数は公立約3万5300人、私立約1万6300人(定時制を除く)の合計5万1600人となっている。大学等進学率は上昇傾向にあるものの43.1%と、全国平均(53.9%)と比べて10ポイント以上低い。しかし九州エリアで見ると、福岡県、大分県に次ぐ第3位である。

地元大学への進学率は近年47~49%台で推移しており、全国第10位であるが(図表1)、県内の大学は国公私立合わせて計10校と少ない。2011年3月に九州新幹線が開通したことにより、熊本~博多間が約40分、久留米までは約20分で移動可能となったことから、大学数の多い福岡県をは

図表1 18歳人口と進学率の推移

年度	2007	2008	2009	2010	2011
18歳人口(人)	21,362	20,259	19,551	19,616	19,201
大学等進学率(%)	38.9	41.7	42.2	43.3	43.1
地元大学進学率(%)	49.2	48.0	49.4	49.5	47.3
地元短大進学率(%)	49.8	52.2	53.2	57.3	54.5

※学校基本調査報告書を基に進研アドが算出。  
※大学等進学率は、大学・短大の通信教育部への進学者を含む。過年度卒業者を含まない。  
※地元大学進学率、地元短大進学率には過年度卒業者を含む。

めとした県外への進学動向に、今後、注目が集まる。

高校の現状①  
改革の取り組み手厚いプログラムで  
指導力の向上を図る

熊本県教育委員会は、2009~2013年度の教育振興施策である「くまもと『夢への架け橋』教育プラン」の一環として、「『夢への架け橋』進学支援事業」に取り組んでいる。高校教員の指導力向上を主な目的としており、3事業からなる「時習館プログラム」と、2事業からなる「ドリームサイエンス・プログラム」がある。

時習館プログラムの事業の一つが、国語・数学・英語の教員を対象に年2回行われる「くまもと教師塾」だ。予備校等の外部講師による模擬授業や研究協議を通して、難関大学をめざす生徒の学習指導に必要なスキルを育成する。

2つ目は、学力向上や難関大学への進学等で実績を挙げている県外の公立高校に教員を派遣する「先進校派遣」だ。派遣先で得た教科指導のノウハウを県全体に還元してもらう。2010年度は国語・数学・英語の3教科の教員を対象としていたが、2011年度から理科・地理歴史を加えた5教科へと拡大した。

3つ目は、医学や脳科学の分野で活

躍する研究者を講師として招き、生徒の学習意欲と記憶力、集中力を高める方法などを学ぶ「特別講座」である。脳神経外科医の林成之氏を招いた2011年度の講座では、各高校から計110人の教員が参加した。特別講座と前述のくまもと教師塾は、私立高校や熊本市立高校の教員にも参加を呼び掛けている。

ドリームサイエンス・プログラムの2事業は、理数系における教員の指導力と生徒の学力の向上をめざす施策である。一つは、高等教育コンソーシアム熊本と連携し、数学・物理・化学・生物の教員を対象に行われる「理数教育指導者育成講座」。科学オリンピックの問題を用い、大学教員による講義や研究協議等を通して、専門性や実践的な指導力の向上を図る。

2つ目は、高校生を対象にした「東京大学視察研修事業」。理科や工業先端技術などに興味を持つ生徒を東京大学へ派遣し、教員の講演や研究施設の見学などに参加する。私立高校の生徒にも門戸が開かれており、毎年約40人が参加している。

その他、県立高校全体の学力アップを目標にした「地域進学重点校」にも取り組んでいる。進学校や成績上位者の熊本市への一極集中を解消する目的もあり、熊本市を除く県南と県北それぞれの地域で拠点となる高校を5校ずつ指定し、進学講演会や合同合宿などを開催している。鹿本高校、人吉高校、天草高校などの計10校が指定されている。

県教委によると、2010年度と2011年度の卒業生の進路を比較すると、指定校10校平均で、大学等進学率が約1.4ポイント、国公立大学への進学率は約2.5ポイント上昇しており、取り組みの成果に手応えを感じているという。

高校の現状②  
入試制度改革学科・コースの特色を  
生かした入試制度へ

1988年度は2万8759人だった県の中学校卒業生数は、2007年度には1万9201人、2012年度は1万7726人にまで減少した。県教委は、適正な学校規模や、高校に求められる教育環境の確保を目的に、2007~2015年度で大規模な再編整備を進めている(図表2)。

再編整備に伴い、2010年度からは、コースを除く全日制普通科の通学区域を8学区から3学区に変更、学区外からの入学者の割合の上限を6.5%から13%へと拡大した。現在、この上限まで学区外の生徒を受け入れている高校はないが、拡大の影響を見ながら2012年度以降、20%まで拡大する考えもあるという。

2012年度から入試制度を見直し、2005年度から実施していた前期・後期選抜制を「前期(特色)選抜」と「後期(一般)選抜」に変更した。

以前の前期選抜はすべての公立高校を対象としていたが、変更後の前期(特色)選抜では、普通科のコースおよび専門学科、総合学科のみの募集とし、コースを持たない普通科の募集は、後期のみとなった。学力検査を課さず、面接や作文、実技検査、実験、自己表現などの学校独自検査を行う。募集人員は全体の50%以内の範囲で校長が定める。

後期(一般)選抜は、全日制の定時制公立高校のすべての教科・コースの募集で、従来の後期選抜同様、5教科の学力検査を行う。

この見直しについて県教委は、「以前の前期選抜方式では、普通科で多数

図表2 「県立高等学校再編整備等基本計画」の主な内容

前期(2007~2010年度)	
2009年度	宇土高校に併設型中高一貫教育を導入し、宇土中学校を開校 八代高校に併設型中高一貫教育を導入し、八代中学校を開校
2010年度	阿蘇高校と阿蘇清峰高校を再編・統合し、阿蘇中央高校を開校 矢部高校と蘇陽高校を矢部高校に再編・統合 大矢野高校、天草東高校、松島商業高校を再編・統合し、上天草高校を開校
中期(2011,2012年度)	
2011年度	玉名高校に併設型中高一貫教育を導入し、玉名中学校を開校
2012年度(予定)	八代南高校と氷川高校を再編・統合し、八代清流高校を開校 水俣高校と水俣工業高校を水俣高校に再編・統合
後期(2013~2015年度)	
2013~2015年度(予定)	荒尾高校と南関高校の再編・統合 多良木高校、球磨商業高校、南稜高校の3校を2校に再編・統合 苓明高校、河浦高校(園芸科学科)、苓洋高校を再編・統合 牛深高校、河浦高校(普通科)を再編・統合

の不合格者が出るなどの課題があった。前・後期制という大枠は変えずに、高校の特色化をより推進できる制度をめざした」としている。

## 私立校の支援

知事の意向を受けた  
県独自の私学支援事業

熊本県は、生徒数で全体の約3割を占める私立高校の振興が、県全体の教育の質向上につながるとして、2009年度に蒲島郁夫知事の意向のもと、具体的な支援策や方向性を「熊本私学夢プラン」にまとめた。その中で示されたのが「熊本時習館構想」だ。

私学振興課は、「独立した法人である私立高校は『共同』という意識がそれほど強くない。学校間の垣根を越え、お互いに切磋琢磨できるように、私立高校全体の取り組みを支援していく」としており、学校合同での講義や研修が多く行われている。

特徴的なのが、進路選択支援を目的

として、著名なスポーツ選手や文化人による特別授業などを行う「夢の道しるべ事業」だ。その一つである「知事の出前ゼミ」は、年に数回、知事が高校に出向き、農業研修生からハーバード大学大学院を経て知事となった経験を基に講演をする。

進路選択の視野を広げるため、留学支援も行っている。2011年度に創設された「熊本時習館海外大学進学支援事業」では、海外の大学への進学や留学を希望する生徒に向けたシンポジウムやTOEFL対策講座などを実施。提携都市であるアメリカモンタナ州の州立大学進学を推進する制度を現在検討中だ。

そのほか、生徒の意欲や自主性の向上策として「がんばる高校生県表彰事業」がある。公立校も対象としており、学業やスポーツ、ボランティア活動などにおいて、他生徒の模範となる高校生を毎年100人程度表彰している。私学振興課は「東京大学視察研修事業を含め、公私の隔てなく、県全体のレベルアップを図りたい」としている。